

# 琉球大学学術リポジトリ

情報関係科目企画委員会：  
全学共通教育としての『情報処理教育』の基準化について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-08-17 キーワード (Ja): 共通教育, 全員履修, 情報処理教育 キーワード (En): 作成者: 黒田, 登美雄, 岡崎, 威生, 米盛, 徳市 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/42308">http://hdl.handle.net/20.500.12000/42308</a>

# 情報関係科目企画委員会

## 全学共通教育としての『情報処理教育』の基準化について

委員長 黒田登美雄（農学部）・岡崎威生（工学部）・米盛徳市（教育学部）

### 概要

琉球大学では平成9年度からの入学生に対して、共通教育として情報処理科目の必修化を前提として検討が進められてきたが、現状の設備面、教育体制面から判断して、現時点では直ちに必修化については結論を急がないことになった。

当面は現在共通教育として提供している情報科学演習と、専門教育として提供されている情報関係科目の内のいずれかの科目について、全員履修が行えるように配慮することになった。そこで、共通教育として必要最小限提供すべき『情報処理教育の授業内容』についての基準を策定したので紹介する。

キーワード：共通教育、全員履修、情報処理教育

### 1. はじめに

琉球大学では、国際化・情報化時代に対応した新しい大学教育の理念<sup>(1)</sup>に基づき、教養教育制度等のあり方について見直し・検討が行われた。その結果、情報処理科目はあらゆる学問の基礎となる情報処理能力を育てるための科目であることから、学生が専門科目を履修する前に受講することが期待されている。そのため、新カリキュラムの目玉の一つとして、従来、選択科目として位置づけられ総合科目の一環として提供されてきた『情報関係科目』を『基幹領域』として位置づけて<sup>(2)</sup>、設備等の条件整備が整い次第、全学生に履修させ、基本的な情報処理技術を身につけさせることを基本方針としている。

情報処理科目の必修化は、平成6年度新カリキュラム編成の際も試みたが、情報関連機器・設備および教員等の教育体制が未整備のため、完全実施には至らず先送りとなった。今回は、教養部の改組（平成9年度）に伴い、共通教育の実施体制も

具体的に整備されつつある。そして、情報関連機器・設備等の整備も可能と判断できることから、大学の責任の下に、平成10年度を目処に全学履修に向けて取り組んでいる。

### 2. 情報処理教育の推進

本学における情報処理教育のねらいは『社会全体の一層の高度情報化が進む中で、情報処理機器を用いた教育研究の高度化、社会生活における情報化の進展に対応する能力の育成を図るためにある』とした。そして、情報処理科目の必修化とその実施体制については、部局長を構成メンバーとする『組織及び運営見直し検討委員会』によって、強力に推進して行くことが決定された。

情報処理教育の推進を図るため、共通教育の枠に限定することなく、専門教育を含む4年（または6年）一貫教育の中で、すべての学生に『情報処理科目（2単位）』を必ず履修させることを決めた。ここでいう情報処理科目とは、本学の共通教育等履修規程に定める『情報科学演習』と各学部の専門教育科目の中から、全学教育委員会が指定する提供すべき『授業内容』の基準をクリアした科目のことである。

したがって、すべての学部は大学教育センターと調整しながら、その学部に入學した学生全員が、情報処理科目を履修するようなカリキュラムを編成することが求められる。

### 3. 情報処理科目の実施体制

#### 1) 科目の提供責任

従来、共通教育基幹領域の情報関係科目の提供責任学部は教養部とされていたが、改組に伴い、平成9年度からは『全学部』が、その提供責任学部となった。

これは、各学部における共通教育としての情報処理教育は、それぞれの学部・学科の専門領域に対応して行われることが望ましいとする考え方による。すなわち、各学部が提供することによって、各学部の専門科目の実情に即したカリキュラムを提供することができるなどの理由による。ただし、学部によっては、共通教育における情報処理科目として『情報科学演習』を提供する必要があるにもかかわらず、担当可能な教官数が著しく少ないことなどの理由から、提供が困難な学部がでてくるなどの問題点も指摘されている。

こういった対応が困難な学部に対しては、「総合大学の情報処理一般教育」<sup>(3)</sup>のあり方から考えても、全学的な支援が不可欠といえよう。

#### 2) 大学教育センターによる全学的支援

大学教育センターは、所属する学部学生への科目提供が十分にできない学部に対して、情報関係教官の分属を受けた学部からの支援や、非常勤講師の配置等により、科目の提供についての調整を行う。そのほか、分属定員に見合う情報科学演習等の情報処理科目の提供責任を全学に対して負うことなどが定められている。

共通教育としての情報処理科目の具体的な提供計画については、大学教育センターの下に設置されている『情報関係科目企画委員会』の検討を基に、全学教育委員会の責任において、以下のような調整を行っている。

##### ① 標準カリキュラムの策定

標準カリキュラムの策定にあたっては学部学科の教育目的を尊重しつつ、高度情報化への臨機応変な対応を行う

##### ② 実施計画の策定

技官およびTAによるサポート体制の計画、演習室（パソコン教室）の割り当て調整を行う

##### ③ 担当教官の事前研修の実施

機器およびソフトウェア等の利用方法について授業担当教官への研修を行う

##### ④ パソコン等の教育設備・施設の整備

##### ⑤ 情報科学演習の提供調整

情報処理科目の提供が困難な学部に対しては、非常勤講師の優先的配置や、他学部からの支援により授業が開設できるよう調整する

#### 4. 到達目標と授業内容

##### 1) 到達目標

授業の到達目標は、すべての学生がパソコン等の情報処理機器を利用して、自由に文書を作成したり、インターネット（電子メール等）を活用して情報の収集・発信および表計算ソフトなどの市販ソフト等の利用技術の習得にある。もちろん、カリキュラム作成の主体は学部・学科にあるから、授業内容と到達目標はそれぞれの学部・学科によって異なってもよい。

ただし、共通教育としての『情報処理科目』が備えるべき授業内容の基準に関しては、前述した本学の『情報処理教育のねらい』から逸脱してはならない。

##### 2) 授業内容の基準化

共通教育の提供責任が各学部へ移ることにより、学部・学科によっては担当可能な教官数が著しく少ないことなどの理由から、専門教育に偏ったカリキュラムが編成され、共通教育基幹領域の情報関係科目として、その教育目標が十分に達成されないことが懸念される。

こういった問題点と各学部の実情に十分配慮して、情報関係科目企画委員会は、以下の4項目からなる授業内容に関する基準を作成した。

##### ① 基本操作に関する事項

パソコン、ワークステーション等コンピュータの基本操作

##### ② 文書処理に関する事項

ワープロをはじめ各種エディターソフトの基本操作

##### ③ データ処理に関する事項

表計算ソフト等を活用したデータ処理

##### ④ インターネット活用に関する事項

電子メールツールおよびWebブラウザツール等の基本操作

##### 3) その他（教育設備ほか）

情報処理科目を全学履修とするためには、教員

の確保や標準カリキュラムの作成，教育機器・施設の整備の外に，機器の整備・保守管理等のための技官や教育効果を上げるためのTA（ティーチング・アシスタント）の確保なども必要である。

情報処理機器や各種ソフトウェアの利用技術の習得は，学生自らが試行錯誤することにより身につくものである。したがって，授業時間以外でも，自由に自習できる機器を備えたオープン（24時間）教室を設置する等の，以下の項目についての配慮が必要である。

- ① 技官及びTAの確保：1教室当たり1名の技官と，1クラス当たり2名のTAを確保する
- ② オープン教室：パソコン等の情報処理機器（最低50セット）を備えたオープン教室を少なくともあと1部屋確保する（現在，オープン教室としては共通教育棟2-200教室があり，午前9時から午後8時まで利用可能）
- ③ 情報処理センターの役割：情報処理センターによる学部担当教官へのハードおよびソフトに関する技術的相談への対応を行う

## 5. おわりに

平成9年度には教養部が改組された。共通教育の提供責任学部であった教養部が無くなることにより，その提供責任が『全学部』へ移った。改組によって，共通教育を各学部の専門と有機的にリンクさせるカリキュラムが容易に編成できる等のメリットが期待できるようになった。その反面，学部・学科によっては専門教育に偏ったカリキュラムが編成され，教育目標が十分に達成されないことが懸念される。

こういった問題点を解決して，全学共通教育としての情報処理教育を軌道に乗せるためには，情報関係科目企画委員会をはじめとした大学教育センターの「強力なリーダーシップ」が必要である。

謝辞 本報文をまとめるにあたっては，大学教育センター長をはじめ，情報関係科目企画委員会のメンバー諸氏からの貴重な意見があったことを

記して，関係諸氏に心よりお礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 琉球大学自己評価委員会編集：琉球大学 発展への道，琉球大学，361pp.,(1994)
- [2] 黒田登美雄・鶴岡智昭：琉球大学における『基幹科目』としての情報処理教育，平成5年度情報処理研究会講演論文集，53-57，(1993)
- [3] 文部省教育改革実施本部編：情報化の進展と教育，ぎょうせい，100-104，(1990)